

《臨床仏教師養成関西第3期プログラム》

臨床仏教 公開講座

講座スケジュール

※本講座は臨床仏教師養成プログラム通算第8期となります。

第1講 10/18 (火) 18:00~19:30

難民支援のあり方

—今、私たちに何が出来るのか!?—

内容 インドシナ難民支援が始まってから半世紀の時が経つ。今またウクライナから多数の難民が日本を含む国外に避難している。心身に傷を抱え経済的な困窮状況にある方々への支援について考える。

講師 河野 太通(花園大学 前総長)
神 仁(臨床仏教研究所 研究主幹)

第2講 11/8 (火) 18:00~19:30

仏教者の 災害支援活動

—僧侶と寺院の可能性—

内容 東日本大震災、熊本大地震、西日本豪雨など近年相次ぐ自然災害、また、津波によってもたらされた原子力発電所事故。被災者支援活動において、僧侶を始めとする仏教者や寺院の果たすべき可能性について探る。

講師 稲場 圭信(大阪大学大学院人間科学研究科 教授)

第3講 11/22 (火) 18:00~19:30

生老病死の トータルケア

—地域社会の力を活かす—

内容 高齢化社会の到来によって、いま医療・社会保障制度が急速に変化し、地域主体の包括的ケアのあり方が要求されている。高齢者の看取りを含めて地域の核である寺院や仏教者が担う役割とは。

講師 飯島 恵道(ケア集団ハートビート(東昌寺) 代表)

第4講 12/6 (火) 18:00~19:30

クマの棲む 豊かな森を次世代へ

—縁起観に基づく共生社会—

内容 地球規模の温暖化現象は、これまでの生態系を急速に破壊しつつある。その一つの顕れが熊の棲む豊かな森の減少である。熊が生息できない自然環境は、人間社会に対してどのような影響を与えるのか。

講師 室谷 悠子(一般財団法人 日本熊森協会 会長)

第5講 12/20 (火) 18:00~19:30

被害者のこころと レジリエンス

—心理的援助のあり方を考える—

内容 児童虐待、DV、セクハラやパワハラ等によって心的外傷・トラウマを抱える人たちが多数存在する。被害を受けた方々に寄り添い支える心理的援助のあり方について学ぶ。

講師 丹治 光浩(花園大学 教授)

第6講 1/10 (火) 18:00~19:30

きょうだいを 亡くされた方へ

—ご遺族のグリーフケア—

内容 多くの人が病や事故などによって兄弟姉妹を亡くす経験を持つ。私たちはそのようなグリーフ(悲嘆)を抱える方々に、どのように寄り添いケアすれば良いのだろうか。当事者としての立場からの提言を聞く。

講師 赤田 ちづる(きょうだいを亡くした会「葉の会」主宰者)

第7講 1/24 (火) 18:00~19:30

いのちの安心を 分かち合う

—傾聴僧としての取り組み—

内容 病院や施設、自宅でケアや看取りに携わる僧侶が少しずつ増えている。僧侶が傾聴僧であるためにはどのような心構えや学びが必要なのか。実践を通じた経験に学ぶ。

講師 河合 宗徹(傾聴僧の会 指導員)

第8講 2/7 (火) 18:00~19:30

子どもたちの こころに寄り添う

—僧侶として、スクールカウンセラーとして—

内容 いじめや虐待、不登校、自死等、子どもたちを巡る環境は、コロナ禍においてより深刻な状況となった。僧侶としてスクールカウンセラーとして、子どもたちのこころに寄り添うその姿に学び、自らを問い直したい。

講師 佐々木 慈瞳(奈良県教育委員会 スクールカウンセラー)

第9講 2/21 (火) 18:00~19:30

仏の願いと仏教福祉

—ビハーラ21の活動を通じて—

内容 今日のビハーラとは、仏教に基づくホスピス等の看取りの場である。そのビハーラを施設のみに限らず地域社会に広げ、仏の願いを現成させている多年の活動に学ぶ。

講師 三浦 紀夫(ビハーラ21 理事)

第10講 3/7 (火) 18:00~19:30

悲嘆を抱える方の 居場所として

—お寺を場とした支援のあり方—

内容 お寺は生老病死の苦しみを吐き出し受け止める場である。多様化する今日的な悲嘆を受け止める心身の居場所として、お寺が果たす機能と僧侶の担う役割とは何か。

講師 西岡 秀爾(花園大学国際禅学研究所 客員研究員)

私たちが生きる社会

私たちが抱く想い

生・老・病・死の「いま」を知る

「いま」を考える

人びとの「いのち」に
寄り添うために